

都立大ボラセン

— 都立大から生まれるボランティア活動 —

Vol.5



特集1

2023年度「ボランティアプログラム」活動を開始しました

特集2

「南大沢夏まつり」に参画しました

特集3

学祭（みやこ祭・青鳩祭）に出展しました

学内団体
News

・ 東日本きずなプロジェクト
・ いきもの！サークル東京

目次

特集1

2023年度「ボランティアプログラム」活動を開始しました 3

特集2

「南大沢夏まつり」に参画しました 11

特集3

学祭（みやこ祭・青鳩祭）に出展しました 13

学内団体 News

東日本きずなプロジェクト 17

いきもの！サークル東京 18

Activity Gallery 19

ボランティアプログラムとは、本学の学生に向けたボランティアセンターオリジナルのボランティア活動です。事前・事後の学習と連動し、ボランティア活動を通じて社会のボランティアリーダーとなり得る人材の育成を推進しています。活動内容の企画や運営は学生を中心に行い、通年活動します。

2023年度も、スポーツボランティアプログラム、地域ボランティアプログラムを開始しました。今年度は、スポーツボランティア22名、地域ボランティアプログラムが35名、計57名の過去最高人数でスタートしました。

まず、全員で事前学習Ⅰを実施し、それぞれが「どうしてボランティアをするのか?」という点に向き合いました。次に、プログラム別に事前学習Ⅱを実施し、どんな取り組みをしていくのか、イメージを膨らませました。

今回は、事前学習Ⅰ・Ⅱの様子に加え、今年度前半の活動の様子を学生の感想と共に振り返ります。

※今年度後半の活動は次回のニュースレターで掲載します！楽しみに！

事前学習Ⅰ

日時：2023年6月24日（土曜日）

講師：室田 信一 先生（人文社会学部 准教授）



グループワーク、個人ワークを通じて幅広い考えを聞きながら自分自身の動機について明確にできた。

他の人の考えや、深掘りを経てより強固で明確な動機になった。

自分では思いつかないモチベーションを見つけることができた。

「何となく役に立ちたい」という思いから、「自分の活動を通じて地域交流の活性化につなげたい」と思いが変化した。

ボランティアが自分の成長にもつながることを知り、それを目標に頑張りたいと思った。



自分のために活動を行うことがひいては誰かや社会のためになると感じられた。

動機について話すことで、自分の本心がわかったと思う。

自分の中でやったことのないフィールドに挑戦したいと思った。



■ 事前学習II (スポーツボランティアプログラム)

日時：2023年7月15日 (土曜日)

講師：信太 奈美 先生 (健康福祉学部 准教授)

岡林 悦子 様 (東京都障害者スポーツ協会)

宮崎 雅也 様 (日野市社会福祉協議会)



スポーツと平和の関係や、そもそもスポーツって...?といった、より発展したところまで考えを巡らせることができた。

スポーツと障害についてより理解を深められたと思う。

初めての経験をして楽しさを見出すことができた。

声かけや笑顔の大切さを改めて知ることができた。

障害者スポーツについて知ることが多かった。更にボランティアとしての役割も具体的に考えることができた。



普段学ぶことのない、“定義”を教えていただき明確に課題を把握できた。



自分が楽しむのが一番だとわかった。

講師の方のお話や、実際にスポーツを体験したことでこれからボランティアを行っていくための姿勢・方針を明確化できた。



実際にどのような障がい者スポーツがあるのか、ボランティアとしてどのように貢献できるのかを知れた。

スポーツを通じて多くの人と関わりたいと感じた。大規模な大会のボランティアで達成できそうだと思うので、積極的に自分で動こうと思う。

スポーツボランティアが関与する意義をより知ることができたと思う。

■ スポーツボランティアプログラム1回目 フロアバレーボール講習会

日時：2023年8月6日（日曜日）

目的：地域交流イベントで実施するフロアバレーボールの設営方法やルールを学び、競技を楽しむ



スポーツボランティアのメンバーと話して交流を深められたのは良かった。フロアバレーボールは楽しかったが、まだまだ人に教えられるほどには理解できていないので本番までに動画でルールなどを確認したい。



パラスポーツという側面に囚われすぎることなく楽しむことも、目の見える人が初めて取り組むときにぶつかる難しさを感じることもできた。

何も見えない状況の時は声掛けしか判断できない、もっと声掛けをしていくべきだと感じた。

■ スポーツボランティアプログラム2回目 ゴールボール講習会

日時：2023年9月2日（土曜日）

目的：昨年学んだゴールボールの設営方法やルールを継承し、競技を楽しみ、交流を深める

初対面のメンバーとも、同じボランティアを行う仲間として協力しながら実施できた。メンバーとの交流が活発になると、今後の活動もより充実した楽しいものとなると思うので、有意義な時間となったと思う。

実際にゲームをすることで声かけや励まし合うことの大切さを感じた。純粋にゲームを楽しむことができた。ポジションによってはあまりボールに触れることができないこともあるので、全員が楽しむためにはボールを回して全員が触れるようにするなどの工夫もあると良いと感じた。

コート of 仕組みやルールの言語化が難しく、誰でも説明できるように準備が必要だと感じた。

鈴の音や、相手の動きの音など、自分との距離をはかるのが難しかった。



■ スポーツボランティアプログラム3回目 「スポーツの集い」運営補助

日時：2023年9月13日（水曜日）

目的：東京都障害者スポーツ協会主催の「スポーツの集い」にて、運営のサポートを行う



他のボランティアの方とも円滑に進めることができるようにコミュニケーションを図るようにした。拍手をしたり一緒に体を動かすなど会場一体となったいい雰囲気作りを心がけることができた。

競技に参加する障害者だけでなく、介助する人も笑顔になっていた。参加した全ての人が楽しめるこのような機会にこれからももっと携わりたい。

■ スポーツボランティアプログラム4回目 日野市みんなといっしょの運動会

日時：2023年10月1日（日曜日）

目的：日野市社会福祉協議会主催「みんなといっしょの運動会」にて、競技運営サポートを行う



サポートさせていただいた方とコミュニケーションがたくさん取れたのが良かったです。反省点は距離についてうまく説明出来なかったことです。



初めて視覚障がいの方のサポートについてなのですが、視覚障がい者の方に腕を持ってもらう位置だったり、話しかける際に名前をはっきり言うなど、施設の方にアドバイスをもらいつつ、自分なりに考えて行動出来た。

楽しむことが大事！

試合中はゲーム状況を細かく伝えることを意識できたと思うし、成功した時や勝った時の喜びも少しは共有できたのではないかと思います。

▶ スポーツボランティアプログラム5回目「青嶋祭ゆるスポーツ体験」は、特集3 (13ページ以降) をご覧ください!

■ スポーツボランティアプログラム6・7回目 「パラスポーツ体験教室」運営補助

日時：2023年10月9日 (月曜日・祝日) 実施競技：フライングディスク (アキュラシー)
10月29日 (日曜日) 実施競技：フロアバレーボール

目的：東京都スポーツ文化事業団主催の「パラスポーツ体験教室」にて、運営の補助を行う



多くの方とコミュニケーションをとれたのはよかったが、教えに行くか迷ってしまうシーンがあった。

フロアバレーは、試合前や試合中、常に声を出すスポーツだったためチームメイトとコミュニケーションがとれた。

異なった障害をもった人でも同じチームで共に戦える、いいスポーツだと思った。また、アイシェードをしてスポーツをした事がなかったので、隣の人の声掛け・支えてくれる腕の重要さに気づいた。



もっと参加者の方に寄り添い楽しませるようにしたい。

■ スポーツボランティアプログラム8回目 都立大生といっしょに！スポーツ体験教室

日時：2023年11月23日 (木曜日・祝日)

目的：八王子市愛宕小学校の小学生に、複数のスポーツを体験してもらい、競技の魅力を伝える
＜実施競技＞フライングディスク (アキュラシー) ・ゴールボール



ゴールボールはかなり魅力的なスポーツである。

怪我無く楽しめたうえ、子供たちに楽しんでもらえた。

小学生は意外と説明しなくても分かる！



もっとやりたいと言ってくれた子も多く、自分も一緒に楽しめた。比較的学年の差が現れず、みんなが平等に楽しめたかと思う。

■ 事前学習II (地域ボランティアプログラム)

日時：2023年7月22日 (土曜日)

講師：加藤 英寿 先生 (理学部 助教)

北出 進 様 (ひなた緑地遊学会)

永井 敬 様 (総務部 施設課 管理係)



地域と関わりを持つためには、地域の人に緑地の存在と魅力を知ってもらい、緑地という場所を介した交流が効果的ではないかと感じた。

緑地の認知度向上に向けてより一層取り組みたいと思った。

歴史やこれまでの活動等、知らないことを学ぶことができた。



緑地の認知度の低さをそこまで実感していなかったが、こんなにもできることがあるということは、もっともっと緑地を良くできるんだ!と思えた。

“地域住民との連携”を通じた繋がりを大切にし、その文化の醸成が大切になると感じました。



新たな学びを得て、どんな活動を目指せばいいか考えるきっかけになった。

竹林整備は「ただ単に竹を切る」という認識だったが、それでは根本的な問題解決にはつながらないと知ることができた。



より自然に興味を持てたし、これから自分たちが行う活動が社会や環境にどう影響を与えるのか知ることができた。

里山の保全や荒廃した歴史について知ったことで、ボランティアを行う目的を深掘りすることができた。

竹の利活用を進めていく中で、竹細工の職人や企業ともつながっていきたいと感じた。



■ 地域ボランティアプログラム1回目 メンバー交流と竹林整備

日時：2023年9月28日（木曜日）

目的：竹林の場所の把握や鋸の使い方、竹の切り方等手順を学び、メンバー同士で交流する



竹を切る中で、方法やコツ、豆知識などを知ったり、さまざまな学年、年代の人々と話すことができた。



初めて緑地に足を踏み入れ、竹を切るという貴重な経験ができた。他学部、他学年、プレミアムカレッジ生など、自分とは異なる所属の方とコミュニケーションを取りとても有意義な時間を過ごすことができた。蜘蛛の巣を取ったり、少し力が必要になることを、先輩やプレミアムカレッジの方々がやってくださってとてもありがたかった。自分も大きな虫をあまり恐れずに進んでいきたい。

竹を切る事が意外と難しかったのでコツを掴んで次回以降はもっとスムーズに切れるようになりたい。

■ 地域ボランティアプログラム2回目 竹林整備+緑地のものを使った製作を考える

日時：2023年10月14日（土曜日）

目的：竹林の整備後、切った竹を使って製作を行い、竹の利活用について考える

竹を切るときの刃の使い方や力の入れ方がわかってよかった。蚊が多かったが、天気もよく楽しく活動できた。

久しぶりに自然と触れ合い、楽しく作業ができて良かった。

竹を倒すときに十分注意することは勿論のこと、ノコギリの使用についても安全面の確保を常に伝える必要があると感じた。

初心者でも切りやすい竹を選ぶ際に、今回は立地を見て選んだが、竹の太さや引っかかりやすさなど他にも考えるべき点が多々あった。そのことも考えながら竹の選定をする必要があると感じた。



■ 地域ボランティアプログラム3回目 竹林整備と学祭展示準備

日時：2023年10月28日（土曜日）

目的：竹林の整備を行い、みやこ祭出展に伴う準備を進める



竹の利活用は、頭で考えるだけではなく実際に手を動かしてやってみることで新しいものを生み出せるということがわかった。

前回切った竹と種類が違うことに興味を持った。それぞれに大きな違いや特徴があるのか気になる。

かなり多くの時間を活動したが、普段できない話もたくさんできて楽しかった。

メンバーの人たちも一緒に製作して楽しんでもらえた反面、活動開始前に本日の活動のゴール（何のために一人何個ぐらい何を製作するか）を全体に伝えていなかったことで、終わりの見えない地道な作業になってしまったと感じた。メンバーの協力は不可欠な一方で、製作だけに活動内容が偏りすぎないように、まずはゴールを認識共有したうえで、散策など異なる要素の活動を組み込めたら良いのではないかと思う。



今日は竹コップ作りを長く担当した。安全面はもちろん注意したが、それ以外特に考えず単調な作業をし続け、自分にはこんな作業が向いているのかなと感じました。また、今日はリーダーの方とたくさんコミュニケーションを取ることができとても楽しめました。



■ 地域ボランティアプログラム4回目 竹林整備

日時：2023年11月4日（土曜日）

目的：少人数でコンパクトに、竹林の整備を行う

ノコギリ使用を適切にできるか心配だったが指導のおかげで技術が上がったかも…！

久しぶりに自然と触れ合い、楽しく作業ができて良かった。



▶ 学祭（みやこ祭）での出展の様子は、特集3（13ページ以降）をご覧ください！

「南大沢夏まつり」に参画しました



4年ぶりの開催となった地域のおまつり「南大沢夏まつり」に、東京都立大学チームとして参画しました。

5月に学内にてボランティアを募集し、本センターの学生コーディネーターを中心に14名で、夏まつりチームを編成。学部・学科も様々な学生が集まり、活発に意見交換をしながら企画を練り上げ、念入りに準備を行い、景品の寄附を募るなど、当日に向けて力を尽くしました。

当日、都立大ブースでは、水鉄砲・スライム作り・謎解きを開催。また、御神輿のサポートや、会場アナウンスでも活躍しました。都立大ブースには200名以上の子供たちが訪れ、長い行列をつくっており、大盛況のうちに終了しました。

今夏、大活躍した夏まつりチームの準備から当日の様子まで、学生の意見と共に振り返ります。

準備の様子 (2023年5月中旬~7月下旬)



地域の大人の方達と関わって、そこで会話をしているうちに、「夏まつり」への期待をひしひしと感じた。

共通の認識をもつためのすり合わせが大変。まとめていくのは難しい。なんだかんだで仲良しの人同士でする中高生までとは違う。意見は出しやすい環境だった。



最も力を入れた点は、「いかに子どもたちに楽しんでもらうか」を重視して考えたこと。

スライム作りで、子供にいかに「自分でやった」と感じさせることができるか。危険なものを扱っているけど、ほとんどをこっちが行っては面白くない経験になってしまうので、一番力をいれて考えた。



「南大沢夏まつり」に参画しました

当日の様子 (2023年7月29日)



大学と地域とのつながりをつくと共に、地域にはないアイデアで子どもたちの夏を楽しませることができた。

地域とは関わりの無かった学生が参加することで、「今」の都立大生と地域をお互いに知る機会になったと感じた。

地域について知る、良い機会になった。

地域と大学の繋がりができた。会話がうまれ、美味しいお店を教えて貰うなど、話すネタが膨らんだ。地方から出てくると、地方の暮らしとも異なるし、八王子と東京の都心の生活も異なる。様々な意味で、外と中の人の繋がりを作ることが出来た。東京にも地域の繋がりがあると分かった。



地域の活気づけや大学との距離感を近づける機会になったと思う。「大学生が来てくれて嬉しい」と言われた。自分たちが加わることで、少しでも地域の活性化に繋がるなら嬉しい。



子供たちと接することは大学生にとっても貴重な体験になる。

地域の人との関わりを続け、都立大生を身近に感じてもらいたい。

親子どちらも喜んでいる顔が見れた！



地域の方は、歴史のある南大沢まつりを誇りに感じていらっしゃる、それを若い世代に伝えたいと考えていらっしゃると感じた。都立大生への期待は大きいと感じた。

ボランティアの参加は今回がほぼ初めてだったが、自分一人ではできない貴重な経験ができたので良かった。

色んな人の思いを受け取って、自分の心の成長に繋がった気がする。深まった。



▶ 景品の御寄附に御協力いただいた皆様、当日ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。

学祭（みやこ祭・青鳩祭）に出展しました

2023年10月7日（土曜日）、荒川キャンパスで開催された「青鳩祭」に、スポーツボランティアプログラムで「ゆるスポーツ体験教室」を企画し出展、ご来場いただいた方に“スナッグゴルフ”と“ボッチャ”をお楽しみいただきました。

また、同日は学生コーディネーターが活動案内のブースを出展し、最近の活動をご紹介しました。

また、2023年11月3日（金曜日・祝日）と4日（土曜日）、南大沢キャンパスで開催された「みやこ祭」に、地域ボランティアプログラムが出展しました。

それぞれの当日の様子を、学生の感想と共に振り返ります。

青鳩祭 スポーツボランティアプログラム「ゆるスポーツ体験教室」



体験後楽しいと言ってもらったり、楽しそうな様子が見られてよかったです。ただ、ボッチャに関しては、子どもと大人は同じルールだと平等に競うのが難しいように見えたので、ルールを調節することも必要かなと思いました。

スナッグゴルフは子供ウケが良かった！

参加している人が全員笑顔だった。

ボッチャでは、限られたスペース・人数で誰でも楽しめるようにルールを変更したり伝え方を工夫したりしてみんなで考えながら取り組むことができたと思う。スナッグゴルフの方も初めての試みではありましたが、ある物品を上手に使って楽しませる工夫をしていて素晴らしいなと思いました。



スナッグゴルフ担当のメンバーとともにルールを確認しながら体育館なりのアレンジまですることができた。またそれぞれ一人で教えることもできた。

コート設営のときに、ボッチャ班の皆さんとルールを確認し合いながら進めることが出来た。

勝つことよりも楽しむことを重視した今回のような体験会では、ボッチャのルールをもう少し工夫した方がより多くの方が楽しめるのではないかと反省した。



学祭（みやこ祭・青鳩祭）に出展しました

青鳩祭 スポーツボランティアプログラム「ゆるスポーツ体験教室」

なかなか普段小さい子どもから高齢の方まで幅広い世代の方と関わる機会がないので、青鳩祭を機会に交流できて嬉しかったです。初めからボッチャを知っている人だけではなく、全く知らない人でも楽しんでいただけたと思いますし、複数回参加して下さる方もいてやりがいを感じることができました。本来のルール通り実施する勝敗があるスポーツももちろん楽しいと思いますが、今回のように勝ち負けに固執せずスポーツ自体を楽しむことにフォーカスした企画を実施でき運営しているこちら側も楽しむことができました。企画段階で青鳩祭の出展をするか迷うこともありましたが、多くの人に楽しんでいただけたので出展してよかったと思いました。



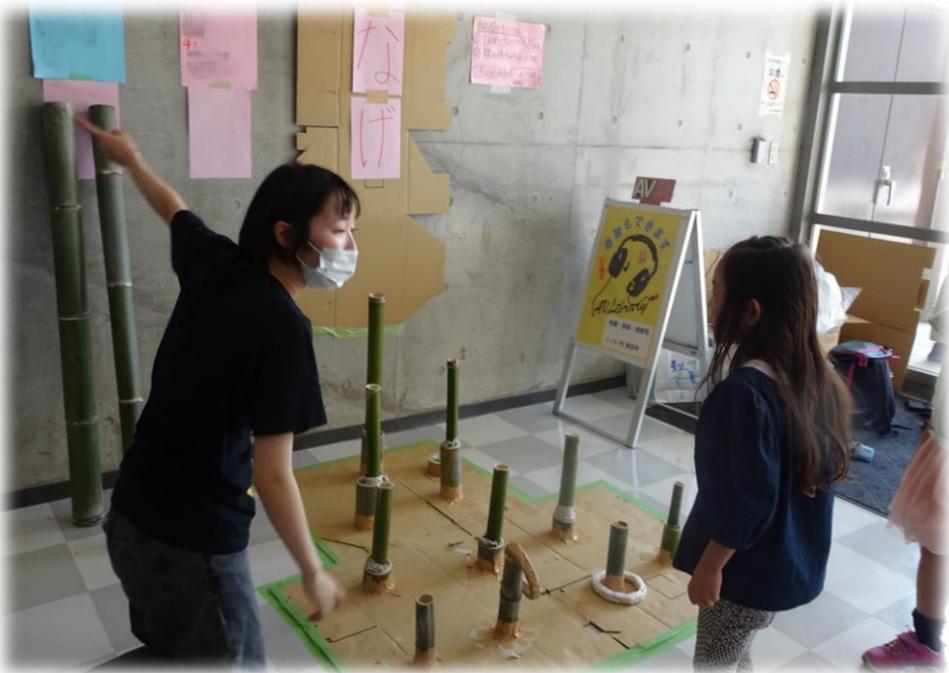
➤ 学生、地域の皆様、子供たち含め、多くの方にご来場いただき、誠にありがとうございました！

青鳩祭 学生コーディネーターの活動紹介展示



学祭（みやこ祭・青鳩祭）に出展しました

みやこ祭 地域ボランティアプログラム



竹で作ったものを来た人に楽しんでもらい、竹の感じを得てもらうことができたと思う。

新たな縁もでき、様々な人に竹コップを持ち帰ってもらったことで竹の利活用ができた。

大学に竹林があることや、竹資源の活用を楽しんでもらえたように感じた。

予想以上の来場があり、大人も子どもも楽しんでいただけたと感じている。

わなげをやる際もう少し何か竹に関することを伝えられたらさらによかったのかなと思った。

学祭（みやこ祭・青鳩祭）に出展しました

みやこ祭 地域ボランティアプログラム



子どもから大人まで様々な世代にわたり伐採した竹の需要があることを知った。もっと多くの人に資源を手にとってもらい、緑地保全と資源活用の両立をさらに進めたい。



出展前に、リーダーから活動の目的や当日の役割分担について詳しく伝えたことで、全員が共通認識を持ちながら主体的に取り組むことができたと思う。また、大きな事故もなく、出展側も楽しみつつお客さんと交流することができた。



子供が、竹を使っでのデコレーションを夢中で楽しんでいてよかった。

親子連れの方がかなり来てくださった。輪投げは高難易度で大人気だったが、工作のスペースも、かなり熱中して取り組んでいた子どももいて嬉しかった。ただ、工作材料のどنگりは、竹コップの側面や上部につけることが形状により難しく、ボンドが固まるまで時間がかかったこともあり、運営側も悪戦苦闘したため、竹に装飾しやすい材料を予め選定しておくことが必要だと感じた。

ポスターでの活動紹介については、見ている方に話しかけて紹介したところ、大学構内に緑地があることに驚かれたり、「電車から見たことあるけどあそこで活動してるんだね」といった、様々なお声を頂きました。今後もより活動を周知していけたらと思いました。

▶ 地域の方や子供たちをはじめ、多くの方にご来場いただき、誠にありがとうございました！



東日本きずなプロジェクト

今回は、2023年度前半の活動を振り返っていただき、今の思いを教えてくださいました。

1 今年度の活動の中で、一番「心が動いた」場面を教えてください。

当団体の活動拠点である大槌町のお祭りに参加させていただいた時です。昨年度よりも地元の方と会話を沢山することができ、ボランティアである私たちを受け入れて下さっているということを肌で感じ心が温かくなり、心が動きました。ボランティアにおいて自分自身の役割を果たすことはもちろん大切ですが人と人とのつながりをもたらししてくれるものなのかなと感じるきっかけになりましたし、これからもこの気持ちを大切に活動していきたいです。

2 取り組んでいるボランティアで、一番苦労したことは何ですか？

今まではコロナ禍であったこともあり、普段のミーティングも zoom を使ったオンライン形式で行うことがほとんどでした。オンラインは場所を問わず、気軽に参加できるというメリットがある一方で、その分「参加しない」という選択肢をとることも容易になってしまいます。そのため、参加率の高いメンバーと高くないメンバーの二極化が生じてしまったり、なかなか画面越しだと仲が深まらなかつたりと苦労することも時々ありました。しかし、コロナも次第に落ち着いてきて、今年度は対面で普段のミーティングや OBOG 会等のイベントを行うことができるようになり、今ではメンバー同士の仲の良さがきずなの誇りであるように感じています。



3 「はちおうじNPOフェスティバル」や「青鳩祭」への出展後の感想を教えてください。

「はちおうじ NPO フェスティバル」については、八王子市で活動する団体が集まっていると聞いていたので、東北を拠点とする私たちが参加しても良いのかと思う気持ちもあったのですが、参加してみると思いの外楽しかったです。何よりボランティア活動をしている様々な世代の方と対面で話せたことで、活動拠点は違っても、共有できる問題、課題が似通っていることに気付けたのは新たな発見でした。

また、昨年度に引き続き青鳩祭に出展させていただきました。今年度はより力をいれ、大槌町の写真展と団体オリジナルのカルタを作成しました。写真展は私たちが定点観測している大槌町の変遷を捉えたもので思いのほか好評を得ることができとても嬉しく思いました。またカルタは小さい子たちに大人気で私たちも一緒に楽しませてもらいました！

4 東日本きずなプロジェクトにとって、ボランティアとはなんですか？

私たちにとっては、人とのつながりの温かさを感じられるものだと思っています！当団体では毎年9月に大槌町で行われる大槌祭にボランティアとして参加させていただいて、巫女さんのボランティアをしたときに着付けを教えてくださいました地元の方が「次来るときはうちに泊まっていきなさいね」と優しい言葉をかけてくださり、緊張していた心がホッとあたたかくなったのを今でも覚えています。関東から来たボランティアの私たちを、優しく迎えてくださった地元の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。私にとって大切な人たちで、これからも活動を通して絆の輪を広げていけたら嬉しいです。

5 東日本きずなプロジェクトのPRをお願いします！

私たちは「自らが現地で“被災地”の『いま』や東北の魅力を知り、学ぶこと。それらを周囲の人に発信し、東北に対して興味・関心を持ってもらうこと。」という活動目的を掲げ、現在は大学1年生から大学院1年生まで、計22名で活動しています！学年も学部もそれぞれですが、あたたかい人たちがばかりでみんな仲が良いことが当団体の推しポイントだと思っています！

東北が好きという方もあまり知らないなという方も、入団大歓迎です！きずなは時期を問わずいつでも入団可能ですので、興味のある方はインスタグラム(@kizuna_pj)やTwitterのDM、メール(tmu.kzn.east.japan@gmail.com)にてぜひ一度ご連絡ください！メンバー一同、お待ちしております。



いきもの！サークル東京

今回は、2023年度前半の活動を振り返っていただき、今の思いを教えてくださいました。

1 今年度の活動の中で、一番「心が動いた」場面を教えてください。

サークル員それぞれ異なると思うのですが、私が心を動かされた場面は、今年度で開催されたみやこ祭です。入場規制もなくなり、元の賑わいを取り戻した文化祭。もちろん私たちの展示会場にも多くの方が足を運んでくださいました。今回実感したのは、SNSの影響です。私たちサークルのX（旧Twitter）アカウントを通して、販売しているグッズや展示の紹介を行ったところ、ものすごく反応をいただけた上、それを見て足を来てくださいました方もいました。今後は、積極的にインターネットでの発信を行いつつ、より良い展示活動が行えるように頑張っていこうと思っています。

2 取り組んでいるボランティアで、一番苦労したことは何ですか？

小さい子供が多く集まるいちょう祭りのようなイベントです。私たちの展示は少し学術的な内容が多く、こちらの意図がうまく伝わらないのではないかと不安になる場面が多いです。そこで展示の工夫として、背が低い子供でも見やすいように展示物を低い位置に置いたり、漢字に読み仮名をふったりしています。ですが一番確実なのは、その場で丁寧に解説をあげるという姿勢だと思っています。どのように話せばうまく伝わるかが難しいところですが、今後も皆で相談しながら努めていきたいです。



3 8月には「日野イオンイベント」にご出展されましたが、出展後の感想を教えてください。

今回の展示場は、イオンモールのエスカレーターのある壁沿いでした。このような多くの人を通る場所での展示は初めてでしたが、予想以上に多くの方が見に来てくださいました。特に、買い物終わりの方や家族連れの方が多かったです。今回少し懸念していたのは、お客さんの反応です。というのも、普段の展示活動では、そのイベントの存在を知った上で足を運んでくださっている方が大半であるため、展示に対するマイナスな反応を見ることはまずないのです。しかし先に述べたように、展示に興味を持ってくれる方が圧倒的に多く、特に小さい子供は抵抗も感じていない様子でした。現代の子供は自然に触れる機会が少ないと思うので、こうして生き物の魅力を伝える活動は非常に意義があると再認識しました。

4 いきもの！サークル東京にとって、ボランティアとはなんですか？

生き物の魅力を幅広い年齢層の方に発信していく活動だと考えています。私たちも、自身の好きな生き物について説明するのはとても楽しいです。形式上はボランティア活動となっていますが、私たちもお客さんと同じくらい毎イベントを満喫しております。今年度は、展示依頼のお話を多くいただきました。こうして活動の機会が増えるのは私たちにとっても本望であり、今後のモチベーションにつながっております。近年、環境破壊等による自然の減少が加速しており、将来は今よりも生き物が減少しているかもしれません。私たちの活動を通して、生き物への理解や関心、自然の大切さを感じていただき、またそれが広まっていくことを願っております。

5 いきもの！サークル東京のPRをお願いします！

私たちのサークルは、その名の通り生き物好きが集まっている団体であり、サークル員それぞれが異なる専門分野をもっています。この専門分野には、ゴキブリやムカデ、ヤスデ、クモ、ガといった一般的に苦手とされがちな生き物が多く含まれています。普段から注目されていない生き物こそ展示するべきだと私は考えており、実際にこれらを使った展示は良い反応をいただいております。その他の活動として、サークル合宿や休日を用いたフィールドワーク、大学構内のビオトープ作りなどがあります。2023年のサークル合宿は、3月に石垣島、9月に北海道に訪れました。今後も積極的に自然に関わる活動を行なっていきますので、興味がある方は、【ikimono.tmu@gmail.com】または、Xのサークル公式アカウント (@tmunathis) にご連絡ください！

Activity Gallery

ボランティアセンターの登録学内団体がボランティア活動で活躍する様子を写真でご紹介します。

今回の団体は

いきもの！サークル東京

さんです。



【いきもの！サークル東京】連絡先

- Mail: ikimono.tmu@gmail.com
- X公式アカウント: [@tmunathis](https://twitter.com/tmunathis)

1 大学生ボランティア活動報告会を聞いてみませんか？

2024年3月18日（月曜日）に、南大沢キャンパスにて「大学生ボランティア活動報告会」を開催します。今年度のテーマは、「Create～繋がるボランティアの世界～」。今年度の活動を通じ、学生たちが～Create～してきたもの、感じた思い、未来への展望など発信します。多くの方にご参加いただき、学生の活躍や思い、ボランティアの魅力を感じていただきたいと思います。開催の詳細や参加申し込みについては、学内のポスター、もしくはボランティアセンターWEBサイトをご覧ください。

▶ <https://volunteer.tmu.ac.jp/>

2 「学生の声」 好評配信中！是非ご覧ください！

ボランティアセンターのWEBサイトでは、ボランティアを通じて活躍する学生の声をお届けしています。学生コーディネーターや、スポーツボランティアプログラム・地域ボランティアプログラムの参加者、ボランティアセンターに登録のある学内団体の学生や、ボランティアセンターを通じてボランティアに参加した学生等、様々な形でボランティアにたずさわる学生が、どのような思いや理念をもって活動しているかお伝えします。毎月1度更新予定です。下記URLからご覧ください。

▶ https://volunteer.tmu.ac.jp/news_pr/volunteervoice/

3 ボランティア相談の予約はフォームをご利用ください！

ボランティアセンターでは、ボランティアに関する相談をお受けしています。どんなボランティアがあるの？ボランティアってどうやって始めたらいい？といった学生からの相談や、学生のボランティアを募集したい、といった地域の方のご相談も可能です。下記URLからご予約ください。

▶ 【都立大生向け】 <https://forms.office.com/r/LAiQFW2aAL>

▶ 【地域の方向け】 <https://forms.office.com/r/ke1QMnYnAb>

【表紙】

左上：いきもの！サークル東京
日野イオン展示イベント
「都立大いきもの園」

右上：学生コーディネーター
青鳩祭展示

左下：南大沢夏まつりチーム
スライム作りブース

右下：スポーツボランティア
プログラム
ゆるスポーツ体験教室

【編集後記】

2023年は夏～秋を中心に、地域のイベント参加や学祭に参加し、学生と地域の方が交流する機会が非常に多くありました。学生にも非常に実りの多い機会となったようです。各イベントにご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。

東京都立大学
ボランティアセンターの
最新情報は
こちらのQRコードから
check！

X (旧Twitter)



公式WEBサイト

